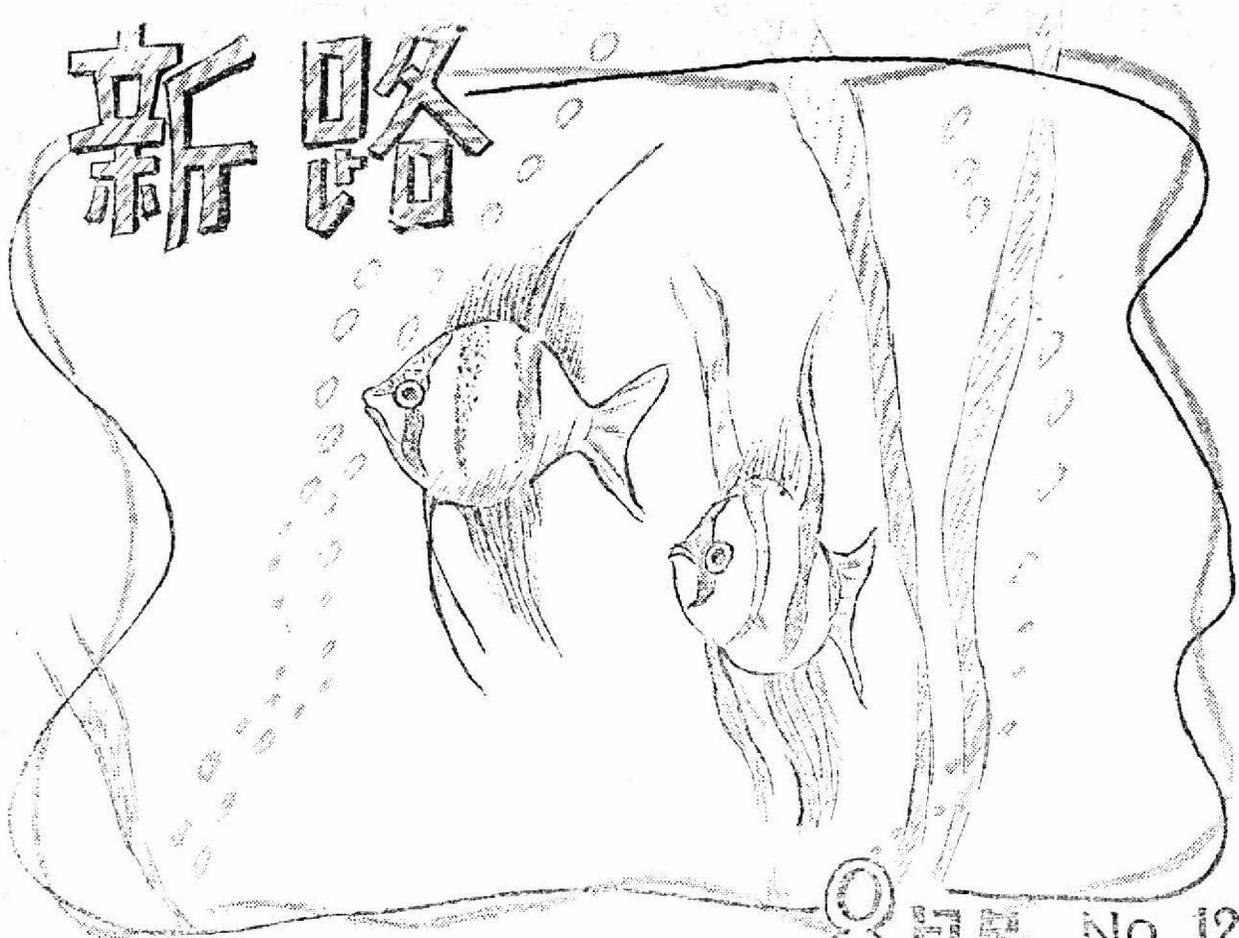


新 略



8月号 No. 12
27. 8. 15.

嶺南合同機関内院外科本報
雑誌研究会発行

目次

★アフターケア
培養陰性の漏入を
手術すべきか
松田 直彦
織本 正慶

考えていること
波谷 修

病院界隈の今昔
鈴木 恒男

ふるさと便り
上 沢 達夫

療友の母と呼ばれて
細谷 弘子

山中湖ハイキング
平野 之清

子の出
N嬢の肖像
酒井 正

教養
二本鼻の建ちゃん
笠原 美子

胸ル
スロフィル交換
西那美代子 ↑ 金子 正明

文芸時評
味の献立
松本 正幸

夏
世界の展望(新中国の病院により)
渡辺 和子

職場の花(鹿野静枝さんの巻)
祝島 俊弘

役所生活回顧録
アンケート回答
祝島 俊弘

あなたは昭和二十年八月十五日を
どう過ごしたか
祝島 俊弘

医療届談
親知会誌
検査成績表
会費消息

脳部成形のミス勢とは？
 養所で二、三成功のシンボル
 だが、入社試験でけきすも
 かりのゆるし、理想家の社
 長が抱いた回復期患者が
 るとやるとは、経営者のエ
 場はとらうことわざしてし
 たせうだ、やうばり病氣
 エがくしくもグリニゴより
 すが、さうだが、それか
 うまくゆへい
 一昨年もは
 死なぬ
 つか、たて
 つか、たて
 つか、たて

近、ろ回復期の病人のあり
 だでアフターケアの問題が
 とりあげられることになつ
 たりは、それだけ軽快した
 人が小之又来たことエホア
 もりで大いに喜ぶ、キエ
 と悪いです。
 現在、アフターケアが具
 体時に実施されていらないの
 は、この問題を解決できる

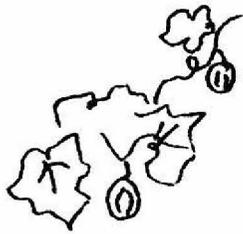
とについては、いまのレニ
 う、病人の経費よりほか
 よるべきものではないかと思
 います。
 そもそも、結核にうつが
 つにちがいはないあな方も
 この問題について、本意に
 考えて下さい。そればあな
 た方自身の生き方の問題で
 あると同時に、日本の国民
 の生き方にも
 がかつて来る
 と思うので丁

アフターケア

松田道雄

る立役者がまだ無きに出て
 きていながら、こころ起つて
 いる混乱にすぎません。
 回復に近い病人が口を合
 せて、アフターケアにつ
 いて相談し、困難があり場
 所をばうメリキけることば
 無状ではありませんが、回復
 期の病人の保護エホアとい
 形で、実施するがといふこと

岩波新書 へ結果をなく
 したのに、より



短歌

療友の母

細谷弘子

- ★ 病院に保護まうけつつかに、かくに
生さうける世をありがたしと願う
- ★ 退院の早きを療友はのぞむも
吾はのぞまず、家も麻もなくて
- ★ 療院に一生居りたく思ふ日よ
幸うて、療友の母と呼ばせ
- ★ 退院も間近き療友が十数度
血をばまりて、下をうきこてよ
- ★ 十数度血をばきしおと、表紙の
療友を感ひて、心安からず
- ★ 略回の療友を、えと、れう母上の
又心しのび、胸のこまりぬ



乙部明子さん



丁日村と云われ

清瀬村の一副 田

さんも私も同じ職入既してしまし
たが、全然、お互いに知り合いま
せんでした。

世の中は広いよとて笑いと
います。私たちに接点いよとて
かつたよとて、さつと、私は若
護婦さんの云ふことを信ずるに
び廻つていたのに反して乙部さん
はバツドにもくまういたが、ちでし
よう。

乙部さんは今年二十二才になら
れる純日本的な女性です。趣味は読
書(特に宗教)それから御本人は
おもしろくないけれど、お人形の
ワンちゃん作りという良い趣味を
お持ちです。作り方をよく知りに
なつた方は、どうぞか。

文章が、辛辛として、玉病気に
なつたので、私には出ずるに未だに
お家のお嬢さん、近頃、お嬢さん
は、女の人を誹り、お嬢さん

洋装を習つて、遠く、将来には
現任して貰ふお茶、お花の先生を
習つて貰ふです。

性格はとて、おもしろい親し
み易い方です。いづれおパンチ
覗いては、おパンチヤンにやほり生
みの親という所から似ています。
アラ、ゴメンナサイ。

私が娘に、来て、一番始めに出
た女性のお友達です。いづれ、こ
も友達で、いづれ、お嬢さん、



将来の希望は、結
婚して、お嬢さん、

うた、つまり、オールド・ミス
心算と云つた所、しかし、お嬢
か、お嬢さん、お嬢さん、お嬢
洋画に出て、お嬢さん、美人
と云つて、よい。

氣胸も年々重なる、玉病病
に燃然として、お嬢さん、お嬢
当然、お嬢さん、お嬢さん、
歌と、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、

お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、

お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、

お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、



お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、

お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、

お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、

男子の優待、合せて彼の頭腦を
持つて事に当れば、将来必ず成功
するタイプ。

「混合結婚でも、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、

お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、

お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、

お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、
お嬢さん、お嬢さん、お嬢さん、

N嬢の画像

昭和二十六年成形 酒井 正

出思の子の教

「中沢、名名と中沢」
 幾度となく口の中で
 独言を云う、秘匿し
 考えたが、どうして
 も記憶がよみがえら
 ない、教える子の幾つ
 かの胸を写つては消
 え、海の中では沈んで
 行くが、どうしてその
 中に昇出す、エド行出
 来なかつた。
 心せくまに、発
 送者、中沢愛子と書
 かれた小包を附添さ
 んに南けてもらうと
 手紙が入っていた。
 「お別れしてから、
 六年、母や兄と共に
 大邸より浦頭に出て
 遊船で山口県の崎
 に上陸、一時、大阪
 入浴付きまして、マ

の後、奈良和歌山と女子通引揚着
 の流浪の旅を続け、やつと母の里
 である佐世保に送付くことができ
 ました。お互いに別れ、いになり
 再びお会い出来なさんと、奇蹟が
 ならぬ限り有り得ないかと考へて
 いたのですが、思いがけなく同窓
 のMさんから先生のお噂を耳聞さ
 して矢も楯もたまらなくなつてお
 便り致しました。
 懐りの内容によると、私が直接
 受持つた生徒ではないが、放課後
 指導して口たラヤヤと部員の中
 にいたとのこと、その口元は赤味
 があつた短髪の子を少し縮らし
 たほうよりした可愛らしげな顔が記
 憶に残つているのを思い出した。
 稀口一葉に面影が何処となく似か
 よつていたので興味をもつて機わ
 た事も思い出すことが出来た。
 送られた小包の中には、赤と黒
 のピロイドで作られた可愛らしい

サンタクロースも入れられてあつ
 て、
 「向ちなくクリスマスも近づきま
 す、先生の祝元へこのお人形さん
 も飾つて下さい」とあつた。せし
 て、手芸がこども好きなのですよ
 ども、ぶきょうちよたから来わない
 で下さいね」とうけ足してあつ
 た。私は懐かしくあつた、あの女学
 生の口元がその言葉の中からは
 出て来るような粗しき記憶に説
 を行つた。然し、次の瞬間、大
 きなショックを感じてにはいられ
 なくなつた。
 「奈良から和歌山へ移る頃から身
 体がだるく変な力で、きつと引揚
 げて苦労したかう飛孔が出たのだ
 と思つていましたら、胸をやられ
 ていました。左肺下葉と右土葉で
 すから安静の及でぶらくしてい
 ますが、近いうちに気候がたや入
 院します」
 一巻に胸がくちませに夢多き音
 響を、尺のワツドに構えた日々々
 かまちは虚無と秋意に二、三、三、三

になつてくるのでは無いかと思つて
 一層いとほしく、慰めくやうたい気持
 マ一杯になつた。私は早速、豆狸状
 まで出ると共にクリスマスカードを同
 封した。ほら、折返して礼状を
 共に送書書五葉を送つて来た。
 「入眠と同時に、気持身一回を行
 今日には、もう肩が痛化しています、夜
 中(朝鮮語)先生、やっぱり引揚
 てからも、時折、朝鮮語が出てしま
 うのですよ」
 正月を過ぎ、二度、三度と支通して
 いる中に、内装に因つて記憶の糸を
 はつきりたどる、エドが、六、六、六
 の彼女の面影もクロイスアツツと礼
 て来た。
 エド、大きな飛孔に漂う一片の
 黄色の花びらの如く、時には、強烈
 月日の光を愛けて青く、そして白く
 輝き、数多くの教えるの中になつと
 見つめていると、何時までも、何時
 までも見えず、飛孔つ遠く、近く、過去
 を話しかけてくるよう、記憶に落ち
 て来るのだつた。

二本鼻の健ちゃん

昭和二十六年夏

登場 息子 子

子供達も帰りに

ソツとした午後の教

室で明日の教材調べ

をしていて、二人は新

緑に濡れた戸外の空

気に誘惑を感じると

もう陰気な教室にい

るのが嫌になり、兼

の畑に出く及た

麦の又どり、黄色

の菜の花、そして野

面を渡る青い旗、土

瓜から二幅の各画を

見るような心地よい

眺め、用水池のほと

りのやわらかな雑草

に腰を下ろして、じ

っとしている。五月

の光を身二ばいに浴

びた健は、アワラア

ワラと歩いて行く、

二本鼻で眠って

もして人でも見ればは入夏
と大いにはいびつていても、つい
ウトウトと、するに、五月

の空も朝比下とばかりに「せーん
せーん」切りこんで来た

千ヨロ／＼あたりを見廻した
が姿はない、一休何処で呼んだ

のかしら、とレヨイと真正面に目
を据えたり、「アツ、いた、いた

健ちゃんだ、昨日前の麦の中から
二本鼻がニヨツキり首をたげて

いる、「百んだ、健ちゃん驚ろが
して、し、コハハ、面白かつ

た、先生のこゝろ驚ろかしてやつて
て悪つたんだ、そんなんでも何し

てんだ、い、と云ひ、ちんちん照
れくさい、「ア、ア、しと私が

「まがして、健ちゃん、鼻の下
相愛らなすいは、紙をけるからま

れいにし、さいいと紙を差し出す
と、「うん」と素直にかなでいる

「健ちゃん、何処へ行ってきたの
か、しと面く、一層の葉を下ろし

て及せて、「斤を採つてきたんだ」
と答える、「どれ、本当だ、すい

一本、次山たつた、脚の骨が
に、さるのり、しと無頼の顔面に健

ちゃんの首がたたくに物く
出さの香は賑やかだ、タンホ

ミコ、小川、列る処、食料のたし
に、ならざる物はない、健ちゃんの

家では、水が少しゆるる、誰か
が、それよりいづく、今年はず

校に入った健ちゃんにオハナが週
つて来たのだらう、

耕子田も畑もない健ちゃんの家
では、一番上の兄ちゃんが他家の

野良仕事や冬の木橋へ、一家が王
計を立立てている、お父さんは、

何かのブローカーをして、いつも
赤い顔にくひえ陽子で村まブラ

ラしている、一問一答の小さい家
では、水い初め病気に一服の薬も

飲む、このできないお母ちゃんを
癒している、そんな家庭で六人兄妹

の五番目に生れた健ちゃんは、何
となく生気がない、その代り、他

の子供のように手に育えぬイタ
ズラもしたことがない、
いつも、私の後をくつついて廻

り、女の子達も和と二語、各異力キ
なれやつて、さるのり、見つけようもの

なら、ふつとんで来て
「コラッ、先生、オレと二人でやん

だから、おめえを、女はなあつちさ
いつるまなぐ、

と番江ふり廻す、私の同様たちは、
「正に恋愛感情発露の才一歩マア

本」が、エエ談をいう、健ちゃんは
私を母ちゃんやんの代用御位に心得、

いたのかも知れない、
今年も、あの子も、もん、六年生に

なつたのが、ア、ア、ア、ア、ア、な
つた、二、三、ろ、ろ、でも、私の思

出の中の健ちゃんは、一回大きく、
らない、

五月が来るたび、菜の花の咲いた
び思い出すのは、あの二本鼻、あの

麦の葉、二、三、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、
ニヤツと笑う健ちゃんの顔だ、



筆 役人生活回顧録

随

昭和二十五年秋形 二七五—一七〇

▽その一

私が官庁に入ったのは偶然の機会からであつた。それまで一般人になるには考えてもみだかつたし、志してもいざなかつた。

半年もたつたある日、私にN県統計課主事という名刺を出した年輩の人が「さういふてあいなつた。先日御下命になりました任に就いて徳命に参りました。」



私はさういふてその人の顔を見たら、その人は白に焼けた幅の広い額に、かしのまつた素髪をうかす、ひがえ

目に私を見入っていた。その頃、わが国は統計課では組合運動の最盛期であつた。民主的の官憲は、課全体にゆきわたつて、一巻年計の計算書の女性でも、一ムラ表情で泣

しかける人はいなかつた。

「これは私が地方官庁に對する中央官庁の天皇制的地位にぶつたつた最初であつた。それから地方へ出張するようになった。まづまづいんげんに「さういふなけれど、まづた統計課主事にして私は全く閉口した。」

日県へ行つたとき、一人の統計主事が私を村に案内してくれた。彼は私に話しかけると、話のあいまに、しきりに息を吸ひこんでしゆうしゆうといふ音を立ててゐた。私はずいぶんサトウの書いた「幕末回顧録」の言葉をおもひだした。そこでサトウは、日本の役人たうは私達外国人に對して丁寧な態度で話しかけると、まづまづ「さういふと音を立てて息を吸ひこんで」といふ意味の「こ」の音があつた。

もう一つ私をなやましたのは

地方のどこへ行つても「まづまづ」の言葉があつた。中央の歴史が出版して来たならば、それが「まづまづ」であつても、また私の「まづまづ」の言葉が常識になつてゐる。これは中央官庁の役人への礼儀といふことになつてゐるが、実は地方の役人が官費で飲む口實なのだ。だから、さういふ二人が二人、まづまづで、まづまづの村からは四五人で、課長、課長次席、庶務主任、係長、庶務係、係長次席といふたのがし、モロメロメンバーである。

「さういふ音が、居留地を調査にまわつた農家から嫌になるほどきかされる。重い税金でもかかひれる。さういふ若くて私ばますます心が重くなるのであつた。」

▽その二

巨大に肥つた派手な顔中ひげだらけの彼に私より十も上に入れた。二人で地方にゆくと、まづまづは係長で私はそのカバン持たしたまづまづらしかつた。



課の女性達は彼を「か」にけに對して「ワシ」といふ異名を「か」につけていた。彼は私達の「まづまづ」が「まづまづ」の「まづまづ」をもちつていた。私達は長い旅に「まづまづ」

「さういふ音が、居留地を調査にまわつた農家から嫌になるほどきかされる。重い税金でもかかひれる。さういふ若くて私ばますます心が重くなるのであつた。」

「さういふ音が、居留地を調査にまわつた農家から嫌になるほどきかされる。重い税金でもかかひれる。さういふ若くて私ばますます心が重くなるのであつた。」

る。……
 だ。……
 わつた。……
 のだ。……
 だ。……



……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

巻のさん枝静野境

……
 ……
 ……
 ……
 ……

職場の花

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……



アンケート

読者の皆様へのご挨拶

このアンケートは、読者の皆様からのご意見を伺うためのもので、ご回答は、匿名でさせていただきます。ご回答は、本誌に掲載させていただきます。ご回答は、本誌に掲載させていただきます。



● 東京、現在西の丸、
 山下宿屋 名古屋から
 自費で通って来ていた
 ら天皇の放送があり、こ
 の頃は絶情だったのです
 口、オオノノ泣きまし
 た、負けた悲しみ、
 しがし涙が乾いた時ホッ
 としました。もう戦争は
 終わったという安心感で、
 その反面今後どうなるか
 と不安な心配で抱え直し
 田舎には親父やお供が
 恋しくて無断で勤め不休
 んで、新選へての夜立ち

● 場所 東京浅草の徳三
 徳三の兄の前
 所持 万事休す、これか
 ら先どうなるかの不安と
 どうやら命は助つたり安
 心感より又苦しむわけの
 わからぬ妙の気持ち
 赤津 幼
 ● 主要な事件はこれ、敵軍
 陣中に毎日急降したのが、
 今日から、礼がなぐりり
 敵軍高へしてわらわら、
 なんと月々安心致しまし
 た。終戦時は茨城県の自
 分の家で、
 戦時 田島 武市

● 東京の戦争末期
 東京の小で八幡橋の中心
 封鎖に行くと丁度朝朝だ
 つたので、両が奇日降つ
 てやり切れませんでした
 たまびいとして夜相がどど
 がわがしてつら思いで
 した、それなら、小隊か
 ら連絡が来り無條件降伏
 という知らせを受け、こ
 れで日本へ帰れるという
 望みが出て来た。
 成形 福井 武久
 ● 軍需工場に下りてい
 ないリンゴを操作してい
 た。 皇軍の降伏が疑
 い本土決戦狂喜に恐怖を
 感じた。
 成形 古田 たけし

● 場所 東京、ラオオと
 新聞の報道するの女に必
 ずを待たせて夜の暇も覆下
 筆の生活をしておりまし
 た。ころ、陛下の重大放送
 上の事に、主人はまる坊主
 へにキヤハン巻、私は軍の
 エンヤに身をかたむけて終
 戦の放送を聞き果然とし
 ている所へ小學生だった
 三人の子供も泣いて帰っ
 て参りました。生きてい
 いのが死んでいいのが、
 涙を流す許りでした。
 松本 正幸
 ● 七年前の八月十五日
 その頃、私は尾川線渋谷
 駅の乗客として勤めて
 いた。当時十七才、古い
 日記の書き聞けてるよう
 「今日は明けであるが、
 代りの右が出勤して来な
 いのに代番をする。正后
 は天皇陛下がマイクの前
 にお立ちになるという、
 電車の乗客さんで降りし
 て自分達も聞いた。それ
 によると陛下におおせら
 れては、敵の新型爆弾に
 御心配をされ、朕の身は
 如何にござらうとも、國民

の戦死したおれは、
 一戦し、二戦はせき、
 る。帝國は世々平安だ、
 國運盛昌と愛語を、
 帰りの足は非常に重た
 った。妻と母、
 陸軍の持板に、
 しい目つきをしていて、
 (原文のまま)
 今に反して読んでみた
 して止まった。だがその
 矢はずり止んだ。
 ● 親如会 大前 良子
 織本病院の現在の十二号
 室へ當時は茶の向でした
 父母、姉妹と共に涙と共に
 聖の放送をききました。今思
 うと、人間が真実の「忠」と
 合構造を知らぬ時に、こ
 んなに面白く感があるものか
 自分ながら悔しく感じま
 す。

薬品と衛生材料
誠実で勉強

卸値で提供
輸入と国産

中野区昭和道2-32

アサヒ薬品店

電話 中野(38)4733-5233

*電話でお問合せを

*すぐお届けいたします